

## 感染症情報 10月22日～28日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	678例(堺市	30例)
②溶連菌感染症	407例(堺市	71例)
③RSウイルス感染症	248例(堺市	17例)
④手足口病	169例(堺市	21例)
⑤咽頭結膜熱	107例(堺市	14例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	90例(堺市	11例)
---------	--------	------

が報告された。

感染症報告数は前週比2.0%増の1,920件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、手足口病、咽頭結膜熱の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比10%増、堺市で前週比25%増であった。溶連菌感染症は府下で前週より15%増、堺市で前週53例→71例は34%増であった。RSウイルス感染症は府下で前週より5%減、堺市で28例→17例であった。手足口病が府下で前週より25%減、堺市では前週16例→今回21例であった。咽頭結膜熱は府下で前週より41%増、堺市で10例→14例であった。

インフルエンザは府下で前週99例→今回90例であった(9%減、定点当たり0.3)。堺市では前週7例→今回11例であった。

麻疹の報告はなし。風疹が府下で前週13例→今回9例あった(堺市では0例)。風疹の府内累積報告数は58例になった。妊婦が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神発達遅滞などの先天性風疹症候群を早期であるほど高率(5～9割とも)で起こす。妊娠する可能性のある女性、妊婦や妊婦の家族と接触する可能性のある人、免疫の低い30～50代男性について、抗体検査やワクチン接種が勧められている。